

# 街を行く

第145回 吉原宿 Yoshiwara-shuku

## 「岳南電車」にはまりそうです

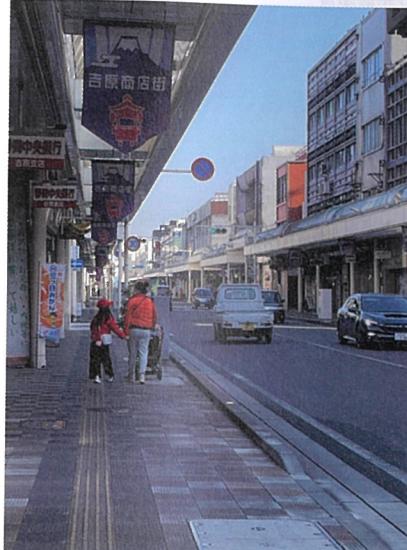
鉄道ファンに根強い人気がある「岳南電車」に乗りました。

目的のないぶらり旅で、熱海からふと西へ行こうと東海道線に乗り、函南、三島、沼津を過ぎた先の吉原駅で下車。思いがけず乗ったという経緯です。ではなぜこの駅で降りたかというと、頭の片隅に東海道の宿場町という記憶があったから。社会や日本史に出てくる「吉原宿」を思い出したのです。

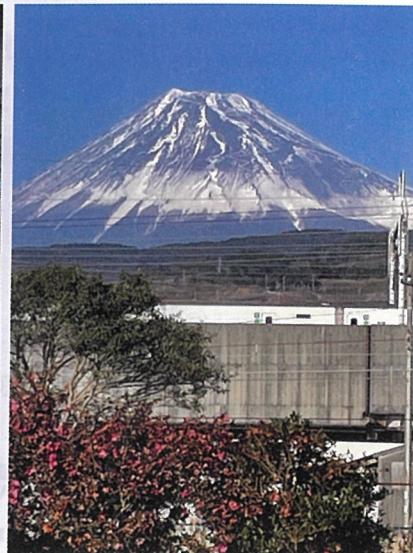
駅を降り、さあ街を歩こうと意気込んだのも束の間でした。駅の周りは閑散。駅員さんに尋ねたら「何もありませんよ」とひと言。これは弱ったなと思ったとき、目に入ったのが「岳南電車」の案内。正直、初めて耳にする鉄道名です。駅の様子をうかがえば超レトロな車両（それも一両編成）が停車中で、プレートに「ワンマン」の文字が。よし乗ってみようかと改札へ行けば券売機がない。駅員さんから硬券きっぷを直接購入する方式でした。その懐かしさと素朴さに嬉しさがこみ上げます。その際駅員さんに「どの駅からの富士山の眺めが綺麗ですか？」と尋ねたら「全線から綺麗な富士山が見渡せますよ」とのこと。全線は10駅で、終点「岳南江尾」駅までは片道30分です。取り敢えず終点まで行くことにしました。

車内を見渡すと乗客は小生以外みな鉄オタさんのようです。カメラや録音機材を持った出で立ちと、一駅ごと慌ただしく乗り降りする様子から一目瞭然です。よくよく見ればそれぞれ楽しみ方にコダワリがあるらしく、カメラを向けるポイントも違うようです。

車内案内では、新幹線と富士山のコ



旧東海道沿いの吉原商店街と岳南電車から眺める富士山



ラボ撮影を奨励していました。小生も終点で降り撮影スポットを探しました。（上手くはないですが）撮った写真を載せましたのでご覧ください。

街を見て歩き吉原宿にも行きたいという本来の目的を思い出し、運転手さんに聞いてみました。運転中に聞いては危ないですが、なんと運転手さんは降りる乗客の切符回収に一駅ごと運転席からでてくるのです。この長閑さにはつと居心地のよさを感じてしまうのは、便利に慣れ過ぎた心が不便さを求めているからでしょうか。

吉原宿の最寄りは「吉原本町」駅。下車すると商店街が旧東海道沿いに現れてきます。本陣や問屋場跡とかは案内板の説明にあるだけで、建物は現存していません。やはりといいますか商店街は“シャッター街”で、営業している店はちらほら。過疎化が進むのは無理もないですが、寂しいですね。

そんな中でも、若者が経営するコンク

リ打ちっぱなしの空間、自家焙煎コーヒーを提供するお洒落なカフェを見つけました。たまたま豆を買いに来られた近所の主婦と世間話に花が咲き、街の活性化や子育てのことまでに話題が及びました。

自由な発想で伸び伸びと成長する次世代をどう育てて行くか、そしてその世代が街おこしを出来るように、今から何を準備していくのか。われわれの責任を痛感した「街に行く」になりました。

**南 一弘**



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エース・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。